

(6) ファカルティ・ディベロップメント委員会

① 設置の趣旨（目的）及び組織

ア 組織設置の趣旨（目的）

ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）委員会は、上越教育大学における教育活動の質的向上と発展を期して、FD活動を実施することを目的としている。

イ 組織の構成及び構成員等

FD委員会は、①FD担当の副学長、②各専攻・コースから選出された教授又は准教授（講師及び助教を含む。）、③その他学長が指名した者の計12人で構成されている。

② 運営・活動の状況

ア 委員会等の開催状況

令和元年度においては、以下のとおりFD委員会を5回開催した。

- ・ 第1回 平成31年4月26日（金）
- ・ 第2回 令和元年6月5日（水）
- ・ 第3回 令和元年10月16日（水）
- ・ 第4回 令和元年12月4日（水）
- ・ 第5回 令和2年3月9日（月）

また、令和元年度FD研修会及びFD講演会の内容を検討するため、令和元年6月25日（火）及び9月3日（火）にFD研修会・講演会検討WGを開催した。

イ 審議された主な事項

- i) 令和元年度FD活動計画
- ii) 令和元年度年度計画に係る実施計画の作成
- iii) 令和元年度授業公開の実施
- iv) 令和元年度学生による授業評価の実施
- v) 平成30年度学生による授業評価報告書の作成
- vi) 令和元年度前・後期「学生による授業評価アンケート」の集計結果に基づく自己評価レポートの作成
- vii) 令和元年度FD研修会及びFD講演会の実施

ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

- i) 令和元年度FD研修会及びFD講演会の実施

FD研修会及びFD講演会については、FD活動の一環として、ここ数年では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることにより、学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員を養成することを目的として開催している。令和元年度は、ティーチング・アシスタント、ティーチング・サポーター及びリサーチ・アシスタントを担う学生を対象に、授業におけるアクティブ・ラーニングの実践をサポートするための理解を深める研修として、アクティブ・ラーニング型授業におけるTA・TSの活用事例をテーマとして、まず、午前中にTAを活用しているアクティブ・ラーニング型授業を見学し、午後は、ライブ形式でワークショップを実施し、TAを活用している教員及びTA学生からの事例発表を基にアクティブ・ラーニング型授業においてTAを活用する上での課題について討論を行う流れで研修会を実施した。

研修会には、アクティブ・ラーニングの積極的な導入に取り組む教職員等 24 人、ティーチング・アシスタントを中心とする学生 5 人が出席した。

なお、令和 2 年 3 月 16 日（月）に予定していた令和元年度ファカルティ・ディベロップメント講演会は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、中止となった。

ii) 学生による授業評価に係るシステムの導入

本年度の授業評価の実施に当たっては、平成 28 年度に「機能強化促進経費」として予算措置されたことにより構築した Web 入力による授業評価アンケートシステムを導入し、授業評価の基本的な流れを変更せずに業務を効率化できるよう図った。

③ 優れた点及び今後の検討課題等

ア 優れた点

- i) 令和元年度 FD 研修会の参加者からは「講義以上に、演習の授業の満足度は高いと思われる。学生の実践力向上につながる演習をより充実させるためには、TA の活用は大切だと思う」や「授業領域により、TA の役割や介入の質と量が異なると思うが、『メインティーチャーが TA を活用する』ことが、授業の効率性や成果に直結すると考えることができた」等の感想が寄せられた。
- ii) 前年度より Web 入力による授業評価アンケートシステムを実施し、引き続き、授業評価アンケートの効率的な実施及びコストの削減に寄与した。

イ 今後の検討課題

- i) 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う資質能力の向上について（平成 27 年 12 月 21 日）」の中で指摘されている「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等に対応した教員養成への転換」の実現に向けた取り組みの継続
- ii) Web 入力による授業評価アンケートシステムに係る回収率の向上及びシステムの充実
- iii) 授業公開における参観者数の向上
- iv) 平成 31 年度大学改革に伴う「教職大学院フォローアップセミナー」のあり方